

「咳ぜんそく」について



内科
菅野 医師

風邪(かぜ)をひくと咳(せき)がでますが、風邪だけでは咳が長期間続くことは通常ありません。風邪であれば、薬を飲まなくても免疫で治るからです。風邪をひいたあとに長期間にわたり咳だけ続く場合、「咳ぜんそく」の可能性がります。咳ぜんそくは、8週間以上続く慢性の咳の原因で一番多く、約30-50%を占めると報告されています。慢性の咳において、真っ先に思い浮かぶのは「気管支ぜんそく」ですが、気管支ぜんそくは咳以外に痰(たん)、息苦しさ、「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という喘鳴などの症状があります。咳ぜんそくは、気道の慢性的な炎症が原因で、さまざまな刺激に対して気道の粘膜が非常に敏感になり、ちょっとした刺激で咳がでてしまう病気です。室内外の温度差や、ダニやほこりなどのハウスダスト、たばこの煙、運動、ストレス、花粉などが咳のきっかけとなり、なかには、話をただただ刺激となり、咳き込むこともあります。

咳ぜんそくは、花粉症やアレルギー性鼻炎などアレルギー疾患のある人に多いとされていて、風邪のあとに咳だけが長引き、胸のレントゲンでも異常がなかったら、この咳ぜんそくが最も疑われます。自然に治ることもありますが、3人に1人が気管支ぜんそくになってしまうと言われており、治療を行わないと気道の炎症により気管が狭くなり、呼吸困難をきたす危険性があり、早い段階で治療を行い、気管支ぜんそくへの移行を阻止する必要があります。

咳ぜんそくに対して、風邪薬や咳止め、抗生剤を服用しても効果はなく、気道の炎症をおさえる吸入ステロイド薬という長期に使用する吸入薬の服用が基本となります。ステロイドといっても、直接気道に作用するため、1/1000 ミリグラム単位と非常に少ない量で効果を発揮し、全身的な副作用の心配は少なく安心して使用できます。治療期間は、咳が治まったとしても、通常3か月以上続きます。

風邪をひかないように注意することはもちろん、過度なストレスや過労も、咳ぜんそく発症の原因となりますので、心身を良好な状態に保つことが大切です。

4月 新任医療スタッフの紹介



湊谷 豊 循環器内科医長 出身地：宮城県 趣味特技：ゴルフ、旅行
紹介：これまで内科及び循環器専門医、心血管カテーテル治療専門医として診療してきました。患者さん一人一人の状況を踏まえた丁寧な診療を心がけていきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。



中山 上 衛生試験室副医療技師長 出身地：新潟県 趣味特技：スキー、ランニング
紹介：4月1日付で衛生試験室勤務となりました。安心して過ごせる様に空気環境、食品衛生、水質の維持を目指して検査をしていきたいと思ひます。宜しくお願ひします。



吉田 拓治 衛生試験室主任医療技師 出身地：東京都 趣味特技：スキー、ゴルフ
紹介：4月1日付で衛生試験室に着任いたしました。初めての仙台勤務で不安はありますが、頑張りますので宜しくお願ひします。

医療の豆知識

お弁当の食中毒にご注意を！

運動会や行楽シーズン、おにぎりやお弁当を持って出かけるという方も多いのではないのでしょうか。お弁当による食中毒の原因菌の 1 つに黄色ブドウ球菌があります。黄色ブドウ球菌は、健康な人でも 3 割から 5 割の人が保菌者といわれており、皮膚や毛根、鼻腔、きり傷や火傷等の化膿した部分に多く分布しています。お弁当をつくる手指が汚れているとその手指を介して黄色ブドウ球菌が食品にうつり、食品中で増殖し、毒素を出して食中毒となります。主な症状は吐き気や腹痛で、食後 1～5 時間に症状が出るといわれています。黄色ブドウ球菌が出す毒素は熱に強いいため、レンジ等で加熱しても無毒化できず、食中毒の可能性が高くなります。食中毒を予防するためには、調理前に石けんでの念入りの手洗いが必要です。さらに食品に触れる手指に傷がある場合は、手袋やラップ等を使って黄色ブドウ球菌が食品へ付着するのを防ぐことが重要です。



【衛生試験室 医療技師 高橋 佳奈】

「第 6 回マンスリーコンサート」のご報告

3月20日、富谷市のピアノ教室から誕生した合唱団「マリン・ミュージック」のコンサートをピアノ田原さえさんの演奏で開催しました。春のおとずれを感じさせる曲や、みやぎの歌として松島やどんぐりころころなどメンバーの小学生は可愛らしい歌声を披露しました。



「第 7 回マンスリーコンサート」のご報告

4月17日、フルート演奏の千葉展子さんとピアノ演奏の門脇麻美さんによる「春らんまんコンサート」を開催しました。曲目はメヌエット（Fビゼー）、ノクターン（Fショパン）、さくらさくら～春の海（日本古謡）、春よ来い（松任谷由実）など、数曲を演奏していただきました。



「JR仙台病院 小児科 第 16 回 J フレンズ交流会」のご報告



4月13日（土）にⅠ型糖尿病のお子さまとご家族の交流会（Jフレンズ）を開催しました。当日は 27 組の患者さまとご家族が参加され、自己紹介のあと、当院小児科 箱田医師の後輩である 東北大学病院小児科菅原典子医師から「こどもの糖尿病と腎臓」という演題で特別講演をしていただき、学びを深めることができました。

その後はⅠ型糖尿病の先輩から「沖縄の島一人旅」のお話を聞きながらおいしいケーキを食べ、最後にお子さまのお楽しみ、お玉やトングを使った「ピンポン玉渡しゲーム」を行いました。皆さんの笑顔あふれる交流会となりました。



理念

高度で良質な医療と心のこもった患者サービスで地域社会に貢献し、調和のとれた企業立病院をめざします。

院 是
調 和

～ 基本方針 ～

1. 高度かつ良質な医療を提供し、地域医療機関との機能連携を強化して企業立病院として社会貢献します。
2. プライバシーの尊重と最善のアメニティに配慮し、安心と満足が得られる快適な療養環境を整備します。
3. 全スタッフが一丸となって心のこもった患者サービスを提供します。
4. 日々研鑽に努め、責任を持って仕事に携わる質の高い医療人を育成します。
5. 医療環境の変化に対応できる健全な医療経営に努めます。